

令和8年度文学部学校推薦型選抜I試験<小論文>  
問題作成の意図

【文学部】

1

問一 文章や音楽、映像などの表現に関して、効率化を追求する姿勢に対する筆者の批判意識について、本文の記述に即して正確に理解し、さらに自分の言葉で記述できるかを問う設問である。この問題は問二の前提となる設問として設定している。

問二 問一で考えた筆者の批判意識を踏まえた上で、本文中で筆者が理想とする文章はどういうものであるかについて論旨を適切にまとめ、それに対する自己の意見を適切に説明できるかを問う設問である。

2

問

(問1)

技術の進展によってかえって **meditation** (沈思黙考、熟慮) が衰退していることを著者は憂慮しているが、それは **meditation** が (**cleverness** と対比された) **wisdom** (智慧) の要件であるという考えによる。それゆえ **wisdom** とは何かについて理解しておくことが必要であり、受験生の理解を問うた。

(問2)

移動や通信の技術は今日、英文が書かれた 1930 年代よりはるかに進歩している。このような時代にあって、静かに考えることや熟慮することが置かれている状況について、インターネットやスマートフォンが日常生活の一部となり、スマホ依存も取りざたされる若い世代に、自分の経験に即してあらためて考えさせたかった。